

＜校務利用＞ ③ 生成AIによる学校ホームページの記事の作成

- ◇記事作成の負担軽減と更新頻度の向上を目指し、校内でのICT研修を通じて生成AI（ChatGPT）による活用方法を導入した。
- ◇学校ホームページの記事作成の負担が軽減され、更新頻度が前年比2.31倍増加した。
- ◇職員間では生成AI活用に対する抵抗感が減少され、新たな業務への応用を模索する動きも活発化している。

あなたはプロのコピーライターです。

以下の文章のパターンを覚えてください。その後、文章を送ります。送信した文章を添削しつつ、足りない文章を付け加えて完成させてください。

数字や記号は全て全角で出力してください。

・11月15日（金）の3時間目に、ライオンズクラブによる薬物乱用防止教室を行いました。パワーポイントによる説明を通して、薬物の恐ろしさや依存性について学びました。6年生の児童たちは真剣に話を聞き、薬物乱用の危険性について理解を深めることができました。

・2年生は、遠足として「こもれびの森イバライド」へ行きました。ミルクパン作りでは、好きな形に生地を形作りました。友達と見せ合いながら、和気あいあいと活動できました。キューブキャンドル作りでは、さまざまな色のキャンドルを組み合わせ、自分だけのキャンドルを作っていました。あいにくの雨模様でしたが、子供たちのキラキラとした笑顔あふれる一日になりました。

・11月14日（木）の1～3時間目に、6年生でかすみがうら市東消防署を訪問し、消防署体験学習を行いました。東消防署の方から消火器の正しい使い方を教わったり、煙の中に入実際に救助活動の体験をしたりしました。6年生の児童たちは、現場で活躍する消防士の方々の話を真剣に聞きながら、体験にも積極的に取り組み、充実した時間を過ごすことができましたようです。

・生活科の学習で、町たんけんを行いました。事前に質問の内容を考えたり、インタビュー

- ①過去の記事12個と指示文を入力したプロンプトをChatGPTへ入力
- ②記事になるヒントを入力
- ③ChatGPTが記事を作成
- ④作成された記事を担当者が修正

＜教育利用＞ ③ 1年生国語 生成AIによる画像のマジック生成及び「そうだんカード」の活用

＜授業の概要＞

児童は教材文「サラダでげんき」を読み、登場する人物たちの行動や会話から内容の大体を捉える。本時では、主人公のお母さんのために「おいしくて元気なサラダ」とはどんなサラダなのか、自分なら登場人物にどんなことを教えるのかを考える。読み取った内容を生かし、自分の好物や特技などに関連させ、主人公に薦める材料とその理由を表現する。



導入では、教材文の内容を振り返らせ、本時の学習意欲を高めるため、Canvaのマジック生成でサラダの画像を作成し、提示した。



個人やグループでの考えのほかに、どのような考えがあるのか、思考が行き詰まった場合に「そうだんカード」を使用し、生成AI（ChatCPT）に提案させることで、視点を広げ、考えを深めるためのヒントとなるようにした。



まとめでは、各グループが作った「おいしくて元気になるサラダ」の画像をCanvaのマジック生成で作成し、次時への意欲付けとした。

＜活用の効果＞

サラダの画像を生成AIで作成し提示したことで、児童の学習意欲を喚起し、主体的に学習に取り組ませることができた。また、「そうだんカード」という形で生成AIを活用させたことで、児童には「自力で課題を解決するグループ」や「生成AIの提案を聞いて考えを広げるグループ」など、課題の解決方法を児童自身で選択させながら学習活動を展開することができた。

<教育利用> ③ 2年生学級活動 生成AIによる栄養バランス評価と献立ブラッシュアップ

<授業の概要>

学級活動で「すききらいせずになんでも食べよう」というテーマで食育を進める。目標は、食べ物の三つの働き（赤・黄・緑）を理解し、バランスの取れた食事について考え、好き嫌いなく食べる力を育むこと。具体的には、児童は栄養素に関する知識を深め、グループでの協力を通じて健康的な献立を作成する。また、生成AIを活用して献立の改善点を見付け、栄養バランスを再確認する。



生成AIに担任が考えた献立を評価させ、課題を見付け出す。生成AIによる評価を通じて、バランスの悪い献立の改善点を探る。



グループで考えた献立を生成AIに評価させ、そのフィードバックを基に献立を改善・バージョンアップする。生成AIの意見を活用し、よりバランスのよい食事を目指す。



学習の終わりに、生成AIのフィードバックを参考にして献立の改善点を明確にし、その結果を振り返りとして活用することで、学びを深める。

<活用の効果>

生成AIを活用することで、学習意欲や協働性が高まり、児童は自分の献立を評価・改善しながら、栄養バランスや食事の重要性を実践的に学ぶことができた。

＜教育利用＞ ③ 3年生学級活動 生成AIによる「うがいのポイント」の整理と自己評価の支援

＜授業の概要＞

児童は、「けんこうな生活」をテーマに、うがいの重要性と正しい方法を学ぶ。目標は、うがいの効果や方法を理解し、実践できるようになること、またルーブリックを活用して自分の生活を振り返り、改善しようとする意欲を高めること。教師は、実態調査に基づき、うがいが十分に実践されていない児童の意識を高めるため、生成AIを使ってうがいのポイントをまとめ、自己評価と振り返りを行わせるようにした。



児童にはグループごとに「うがいのポイント」を考えさせ、教師は、生成AI（ChatGPT）を使ってそれらのアイデアをまとめる。生成AIは、児童が出したアイデアを整理し、効果的なうがいの方法を提供する。



教師は、生成AIがまとめた「うがいのポイント」を、授業の振り返りで使用するルーブリックの評価項目に反映させる。児童は生成AIからのフィードバックを基に、自身のうがいの実践について自己評価を行い、今後改善すべき点を明確にする。

＜活用の効果＞

生成AIを活用することで、児童は「うがいのポイント」を効率的に整理し、グループで考えた内容をフィードバックを通じてより深めることができた。また、自己評価を通じて、実践的な改善意識を高めることができた。

リーディングDXスクール事業 【AIパイロット校】

かすみがうら市立霞ヶ浦南小学校

<教育利用> ③ 4年生体育 生成AIによる「幅跳び」における技術改善アドバイスとループリックの自己評価の活用

<授業の概要>

この授業では、児童が幅跳びの基本動作（助走、踏み切り、空中動作、着地）を習得し、自己の課題を見付けて解決するための練習を行った。その中で、生成AIを活用して振り返りのフィードバックやループリックの自己評価に対する個別のアドバイスを行った。

コメント	出席番号	助走	ふみ
べなかつたアドバイス	1	次	ふみきりは
とても速い	2	リズムよく走ることができています。この調子でスピードも意識しましょう。	イメージよく速くへんぷりして跳けま
たてを跳ぶ	3	助走とリズムがしっかりできています。そのまま安定した走りを守りましょう。	ふみきりがわり、タイムをたてて跳けてい
たてを跳ぶ	4	助走のスピードが少し遅くて安定していません。足元を安定させて思い通りに跳びましょう。	ふみきりのイメージで、しっかりと跳びまわ



前時までの児童の振り返りや生成AIからのフィードバックを参考に、本時のめあてを設定する。

生成AIを使って、ループリックの自己評価に基づいたアドバイスを児童に提示し、各自の練習内容を改善する手助けを行うことで、児童は自分の課題を認識し、改善に向けた具体的な目標を立てやすくなる。

Googleフォームを使って児童の振り返りを収集し、前時のフィードバックや生成AIのアドバイスを確認しながら次回の目標を設定させることで、学びの定着を図り、次回への意欲を高める。

<活用の効果>

生成AIの活用により、児童は個別のアドバイスやフィードバックを受けながら、自己の課題を明確化し、効率的に改善策を見付けることで、学習意欲を高めることができた。また、協働的なグループ活動の中で生成AIからのアドバイスを活用することは、仲間と共に技術向上を図りながら学ぶ楽しさを実感することにつながった。

＜教育利用＞ ③ 5年生保健体育 生成AIによる過去のけがデータ分析と予防策の効果予測

＜授業の概要＞

本時は、児童が学校生活や外遊びにおける事故やけがの原因を理解し、その予防策を協働的に話し合うことで、安全意識を高めることを目的としている。生成AI（ChatGPT）を活用して過去のけがのデータ分析や予防策の効果予測を行い、児童の思考力と安全意識を育む。

けがの種類		けがした場所	
打ぶく	292件	校庭	369件
すり傷	288件	教室	178件
ねんざ	31件	体育館	102件
切り傷	18件	廊下階段	31件
骨折	2件	その他	188件
その他	246件		

事前に学校内で発生したけがに関する記録を生成AI（ChatGPT）に読み込ませ、けがが起こりやすい場所やその種類を分析した資料を児童に提示することで、けがの原因を多角的に考え、予防策に対する理解を深められるようにする。



「児童が提案したけがの予防策を実行した場合、どのくらいけがが減少しますか。」というプロンプトを打ち込むことで、学校のけがの防止についてより深く理解し、問題解決に向けてさらに多くの視点で考えられるようにする。

＜活用の効果＞

児童には生成AIを活用して過去のけがのデータを数値化したものを提示し、視覚的效果を高めながら、予防策の効果を様々な視点から思考させることができた。また、生成AIによる予測結果を参考にすることで、児童の課題解決に向けた意欲が著しく向上し、安全意識を深めることができた。